

第3回 山形盲学校と上山高等養護学校の併置準備委員会【記録要旨】

1 日時 令和5年2月13日（月）10：30～11：45

2 場所 県庁1201会議室

3 協議

（1）2校に共通する教育計画（案）について

基本理念4 安心して学べる安全な学校

- ・自分で判断し、安全に気をつけて行動する力を育成する。
- ・幼児児童生徒が安全に生活しやすいよう配慮した教育環境にする。
- ・自然災害等への対策を講じ、障がいの特性や立地環境に配慮した安心安全な教育環境を整備する。

<主な意見等>

- ・視覚障がい、知的障がい等の障がい種に限らず、すべての人に安心安全でわかりやすいユニバーサルデザインの教育環境の整備が必要である。
- ・災害時における避難の際は、2校が協力して逃げたり、助け合ったりすることになる。そのため、日頃から2校間でよい関係を築き、互いの理解を深めることが大切である。
- ・2校合同の避難訓練は大変意義がある。計画をたてる際、災害に応じた避難ルートや避難場所、避難後の動き等について丁寧に話し合い、実際に避難できるようにしなければならない。
- ・雪国ならではの通学路等の安全確保、立地環境に関わる災害（浸水、噴火等）を想定した対策を講じてほしい。

（2）2校併置校整備に伴う交流等（案）について

①幼児児童生徒について

- ・2校合同で実施する
→合同避難訓練（学校、寄宿舍）、スクールコンサート（学校）、顔合わせ会（寄宿舍）
- ・山形盲学校の活動に上山高等養護学校が参加、見学する
→山盲祭、校内弁論大会、ミニコンサート
- ・上山高等養護学校の活動に山形盲学校が参加、見学する
→上高養バザー、マイロードサポート活動、地域貢献（ボランティア等）

②教職員について

- ・2校合同で実施する
→幼児児童生徒理解、障がい理解、学校安全にかかる会議及び研修会（学校、寄宿舍）
- ・2校の研修会に希望者が参加できるようにする
→学習指導、生活指導、進路関係、教育相談等に係る研修会の一部

<主な意見等>

- ・幼児児童生徒は、将来、社会の中で生活することになる。一緒に活動を通して、相互理解や社会性が育まれる。日常の関わりの中で、就労や自立した生活に必要な力が身に付くとよい。
- ・幼児児童生徒にとって、ICTを活用することで、障がいによる困難さの軽減を図ったり、生活しやすくなったりする。2校のICTの活用方法は違うが、将来的に2校の学びがリンクする可能性も視野に入れておくとよい。
- ・2校間交流に加え、併置後も上山市内にある小・中学校、高等学校との交流を充実させてほしい。
- ・在籍数や年齢の幅等の実情を考えると一律に生徒会同士の活動は難しい場合もあり、行事を主体とした交流を、学部学科に応じて実施していくことも考えられる。
- ・限られた授業時間の中で、交流の時間の教育課程における位置づけの検討、年間計画の調整等が必要である。

（3）2校併置校整備に伴う教育基本計画（案）の構成について

- ・教育基本計画（案）作成に向け、作成時期、内容等を各校と相談しながら進める。

（4）2校併置校整備スケジュール（案）について

- ・今後の予定について作業部会、合同作業部会、準備委員会でその都度確認する。